

# 女性活躍推進フォーラム 第3回

## 6チームでプチプレゼン

### 本番見据えブラッシュアップ

#### 立川美夏子氏が講義

人材育成委員会が主催する第3回「女性活躍推進フォーラム」が12月17日にウェブ会議方式で開かれ、ホール会員企業18社から女性正社員30人が参加した。

冒頭、水野賢一副委員長は、「20

20年はコロナによって大変な年だった。そんな中開催されたこのフォーラムも今日が年内最後となるが、前向きに精一杯がんばっていただきたい」とあいさつした。フォーラムの折り返し地点となる今回は、途中経過報告とプレゼンテーションの練習も兼ねた5分間プレゼン(プチプレゼン)がプログラムされた。水野副委員長からプチプレゼンの目的やルールなどの説明を受けた後ブレイクアウトルームに分かれ、委員会メンバーも加わりプレゼン方法や企画内容などのまとめに入った。

あみだくじによって決まった発表順で、B「欲張り女子」チーム、A「まるちゃん」チーム、D「企画書」チーム、C「チームスマイル」、F「全集中プラス呼吸ウーマンプロジェクト」チーム、E「Egirls」チームのプレゼンが行われ、参加者や委員と質疑応答を体験し、方法や内容のブラ

ッシュアップを行った。

13時半からはエンターテインメントビジネス総合研究所

立川美夏子氏による

「インバスケット思考

究極の判断力を身につける!!」のセミナーが行われた。

立川氏は

1950年代のアメリカで始まった「インバスケット思考」を、限られた時間や条件の中で同時多発的に発生するアクシデントを解決・処理していく思考方法だと説明。それら各問題を重要度と緊急度のマトリクスに置き、すぐにやるべき重要度の高いものから、後で対応しても良い事象までの優先順位を付けていくことで、問題への対処能力が向上するという。

## 女性活躍推進フォーラム インバスケット思考

～ 究極の判断力を身につける!! ～

2020年 12月

株式会社エンタテインメントビジネス総合研究所

エンタテインメントビジネス総合研究所、立川美夏子氏によるセミナー

受講者は提示された3つのルール、絶対的な正解はないこと(各自が置かれた状態、社内ルール、地域環境などで優先順位は変化する)、主人公になりきって取り組む、時間を意識することなどを踏まえてインバスケット思考を体験した。

インバスケット思考を継続していくことにより、優先順位決定力と問題解決力、判断力が磨かれ、問題発見に優れ、主体的に物事に取り組み力が付き、より客観的・合理的な判断が可能となるとした。追われる仕事から追う仕事作りへと思考が変化していくという。

セミナー終了後再びブレイクアウト機能を使用したグループディスカッションに移り、各グループの企画内容の協議、議事録作成などをを行いフォーラムは終了した。次回開催は2021年1月21日を予定している。

#### 参加者 (順不同、敬称略、(株略))

- Aグループ**=丸山良美(オータ)、葛西美香(新日邦)、内田有紀(新日邦)、岩沢聖美(日拓ホーム)、石森安加里(フローバ)、國吉亜紀乃(安田屋)
- Bグループ**=浮田麻衣(アプリイ)、三浦裕美子(ABC)、岩上涼子(ダイナム)、佐々木明子(フローバ島根)、飯島佐織(メッセ)
- Cグループ**=木子紗耶加(玉屋)、山下夏恵(日拓ホーム)、湯川千夏(ピーアークホールディングス)、山田結理(平成観光)、加賀美由衣(メッセ)
- Dグループ**=谷川彩華(善都)、白田唯(NEXUS)、佐々木姫奈(フローバ)、小林未来(平成観光)、竹田雅恵(マルハン)
- Eグループ**=望月知那(アプリイ)、水田月(ニラク)、勝実弥美(平成観光)、石松彩(マルハン)
- Fグループ**=徳永成美(新富商事)、坂牧美穂(玉屋)、大松ひより(日拓ホーム)、熊谷裕美(フローバ島根)、渡邊美佳(安田屋)



女性活躍推進フォーラム特設サイト  
<http://www.nichiyukyo.or.jp/diversity/>